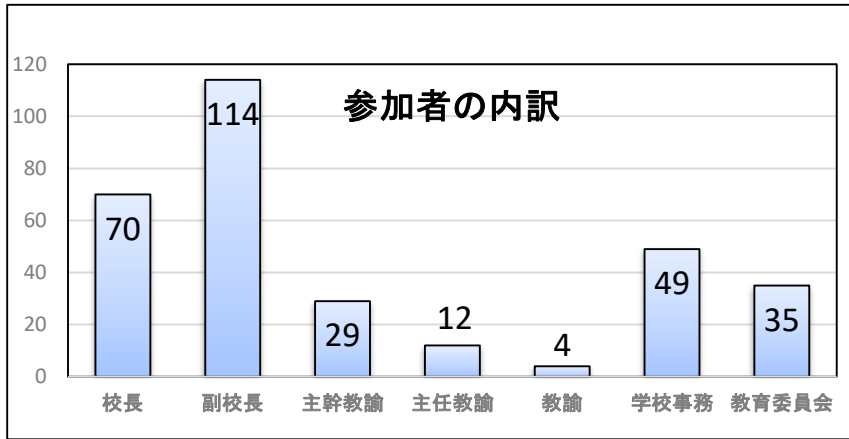


令和元年度 校務改善推進事業発表会 参加者アンケートまとめ

＜参加者315名の内訳＞



＜考察＞

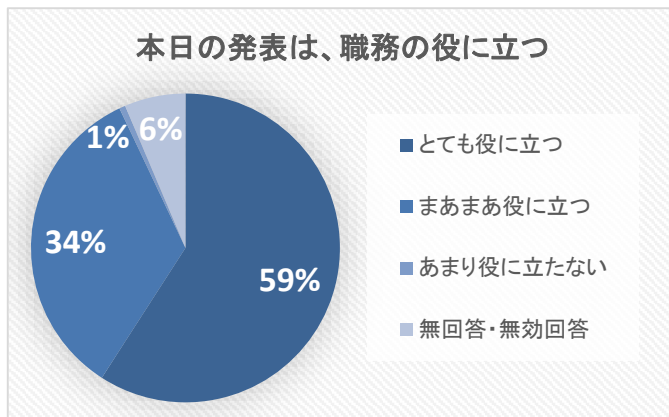
今年度の校務改善推進事業発表会(以下「発表会」という。)は水曜日に開催したため各地区の教育研究会と重なり参加者数は昨年度より減少した。

全体的に参加者が減少したものの、主幹教諭、主任教諭、教諭、学校事務の参加者は微増した。

各職層での校務改善に向けた実践的な取り組みと本発表会の情報により、今後の校務改善への取組の意欲向上になると考える。

	校長	副校長	主幹教諭 指導教諭	主任教諭	教諭	学校事務	教育委員会	合計
H29	80	122	26	22	3	63	30	346
H30	90	130	27	10	2	44	39	342
R1	70	114	29	12	4	49	35	313

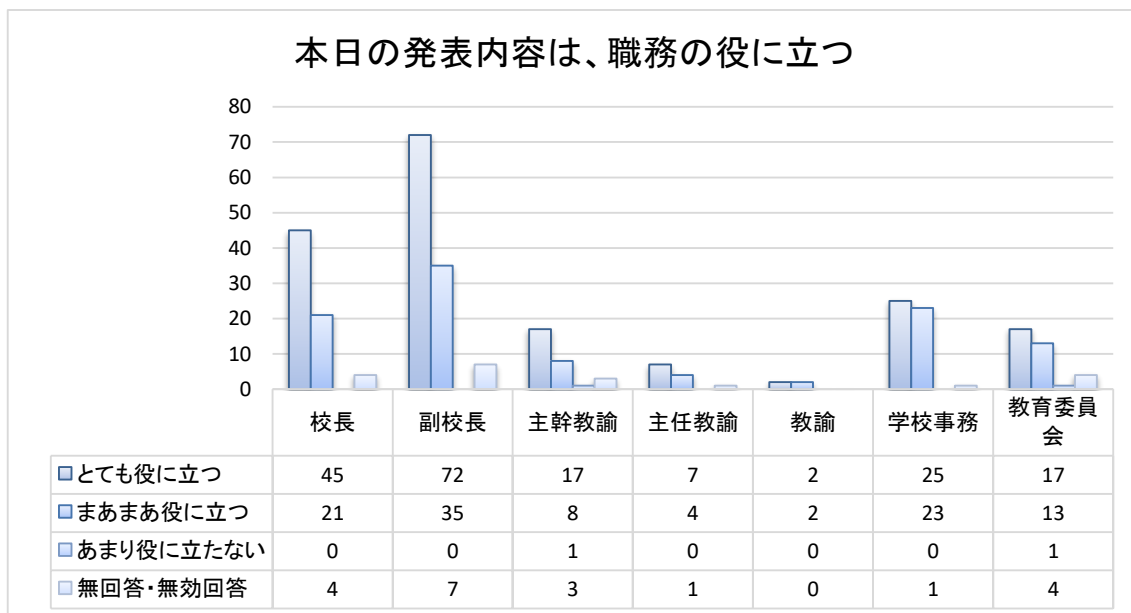
〔1〕本日の発表会の内容は、職務の役に立つか



＜考察＞

肯定的評価が9割以上となった。アンケートの自由記述より、発表会に参加することで内容の理解はより深まるとの意見があった。

今後の取組として、教職員が現況知りたい校務改善情報を発表会アンケート等から把握し、発表会の事例等で発信することが必要である。



〔アンケート自由記述より〕

(3) 校務改善についてご自身の取組

【主幹教諭等】

- 定期考査のマークシート一部導入により採点の軽減を図る。
- データ教材の共有化、学校だよりと学年だよりの一本化を行う。

【副校長】

- 経営支援部、副校長補佐の協力を得て、校務を適正に振り分けている。
- その日に行うタスクリストを作り、計画的に作業を行い、進捗状況を確認する。
- 校務支援システムを利用した連絡事項周知による打合せの短縮。
- 出退勤システムを活用した出退勤時刻の確認。

【校長】

- スクール・サポート・スタッフに頼める仕事を教員との話の中でイメージさせ、依頼できるようになっている。

【事務職員】

- コピー機、プリンタの用紙・インク・トナーがスムーズに補充できるように在庫保管場所を変更した。
- 副校長の業務負担軽減や業務支援、日常のコミュニケーションを通じてサポートしている。
- 物品の整理、使用者の動線を意識した配置変更により使いやすくしている。

【教育委員会】

- 直接校務に関わることはできないが、調査、書類等は出来る限り概要も示し、必要な事項を明らかにして通知するよう係内で統一している。
- 働き方改革補助金を活用し、教員のタイムマネジメント力向上事業を実施中。

(4) 校務改善の取組における課題

【全体】

- スクール・サポート・スタッフの効果的な活用。
- 教職員の意識改革・当事者意識の醸成。
- 人材を生かす組織の構築と役割分担適正化。
- 分掌業務・業務内容の整理・見直し。

【主幹教諭等】

- 組織的に校務改善を進める、助け合える取組。
- 教職員間の連携・意思疎通。

【副校長】

- とりあえず副校長という体制の改善・副校長の業務改善。
- スクール・サポート・スタッフや副校長補佐・講師等の人材確保。
- 小規模校のため予算が少なく、一人に対する業務量が多いこと。
- 校務支援システムの活用。

【校長】

- 業務の優先順位のつけ方・業務の進め方・タイムマネジメント。
- 行政や地域・町会、保護者への周知・意識改革。

(5) 今後取り上げてほしいテーマ

【全体】

- 保護者、地域との協力体制の作り方。
- 私費会計徴収の改善事例・取組。
- 小規模校、島しょ部での校務改善。
- スクール・サポート・スタッフ運用の工夫、どのような仕事を任せているのか、一覧を紹介してほしい。
- 人材不足を補う見通しやその方策。
- 職員室等の環境整備の好事例など。

【主幹教諭等】

- 具体的に各学校で廃止している行事や取り組み・打合せ・習慣等の事例。

【副校長】

- 企業等の改善の取組、外部専門家活用事例。

【校長】

- 教職員のタイムマネジメントに視点を当てた校務改善。

【教育委員会】

- 部活動指導員の先進的な取組について。

(6) 自由意見

【全体】

【主幹教諭等】

- 発表会をネット配信等してほしい。
- 校務改善は「チャレンジしたい、やりたい」と思うことが増えるのも一つである。校務改善＝働き方改革ではなくやりがいに結びつけていきたい。

【副校長】

- 資料にだけ目を通すのと実際に発表を聞きながら資料を確認するのとでは、理解の内容、程度が違う。今日は参加して本当に良かった。
- 考え方、やり方次第で、校務改善が図れるということを実感した。
- 組織を活用していけるよう、管理職としてうまくコーディネートしていきたいと思った。なによりも、組織、情報交換。
- 副校長補佐の配置により、校内の巡回、若手教員の指導などができるようになってきた。時数軽減によって授業準備等の時間が確保され、生徒対応の時間がとれているとの意見も挙がっている。

【校長】

- 都全体で情報・取組事例を今後も共有してほしい

【事務職員】

- 事務作業の時間を子どもと向き合う時間に使い、質の高い教育を行えば、校務改善へのモチベーションもアップする。働き方改革＝教員の労働時間削減＝教育活動の縮小であってはいけないと思う。
- 教職員が主体的に学校づくりに取り組むことはあらゆる課題を解決していくためのきっかけになると感じた。

【教育委員会】

- 区教委として学校に対して出来る支援の事例が具体的に知れるよい機会だった。
- スクール・サポート・スタッフや副校長補佐の活用について、学校の声を聞けたのは良かった。
- 校務改善にも様々なやり方があると分かった。情報収集し、自校でできることを探していく必要があると思った。